



埼玉県騎西町『藤とあじさいのプロムナード』
10月に咲いた見事な四季咲きあじさい。植栽2年目。

杉本 誉晃

第11号 あじさい

2003年12月発行

発行 日本アジサイ協会
事務局 〒173-0037 東京都板橋区小茂根5-3-11 杉本誉晃方
日本アジサイ協会事務局
TEL 03-3956-8423 FAX 03-3530-7707
東京三菱銀行 荏田支店 口座番号 普通 0481343

日本アジサイ協会
THE JOURNAL OF THE NIPPON HYDRANGEA ASSOCIATION
第11号 2003.12.



アジサイを訪ねて(第5回) 綾



写真提供:御殿場農園

綾

石川県山中温泉の奥山で十数年前に発見したものの。現地では淡青色だったが、鹿沼土で淡紫、赤土で桃色花を見る。雌花はなく、丸弁の八重、手まり型でやさしい。杉本、藤井氏らの勧めで孫娘に因み“綾”と命名。エゾアジサイ系なので冬期の乾燥に注意したい。
(会員・松枝 章)

Contents

- | | |
|----------------------|---------------|
| 3. あじさいについて | 岩佐吉純 |
| 10. ノリツギについて | 藤井 清 |
| 13. 自宅展ならびに展示会を開くまで | 松元公正 |
| 16. 美山町の山あじさい | 谷口 充 |
| 18. アジサイおちこち | 前谷玲子・相知町・堀野一人 |
| | 秋田 宏・武井 帝 |
| 22. 連載 梅雨の花アジサイ② | 山本武臣 |
| 22. 第六回 日本アジサイ協会総会報告 | 安藤秀夫 |
| 24. 事務局だより | |

アジサイについて

アジサイについては前会長 山本武臣氏の詳細な論文・著作があり、皆様ご存知の通りです。ここに小生の蔵書の中から古い記録と色刷版のあるもののみ記載しました。

(1) アジサイ科について

1829年デュモルチェが提唱しているがエングラ（エンブレル 1844~1930）の分類体系が広く用いられ、本草・草本の属が一つになったユキノシタ科として長く分類され、

植物目録 環境庁自然保護局 岩槻邦夫座長 1987 発行
最新園芸大辞典 榊誠文同新光社 1983 発行
原色日本野外植物図譜 奥山春季著 1983 発行
牧野新日本植物図鑑改訂 前川文夫・原寛 } 1979 発行
津山 尚 }

等の著書にはユキノシタ科としてアジサイは位置づけされる。

植物系統分類の基礎 山岸高旺編 1983・3版発行
マンサク目ユキノシタ科アジサイ亜科に位置されている。

近年 A.J.クロンキスト(A.J.Cronquist)ダールグレン(R.Dahlgren)らによる新しい分類がなされている。朝日百科 植物の世界(1977 刊)ではクロンキストの説をとりいれアジサイ科に16属 200種が含まれアジサイもユキノシタ科からアジサイ科に移された。

Zamper Ulmer 社も 1994 版はユキノシタ科であったアジサイが 2000 版はアジサイ科に、又ユリ科もダールグレンの説によって大中に変更されている。日本では文部科学省の資料が呈示されないが日本アジサイ協会としてはアジサイ科として統一をはかるのが望ましいと考えますがいかがでしょうか。

(2) 外国の古書にみるアジサイについて

英国に於ける王立キュー植物園の入手記録は極めて正確である。

理事 岩佐吉純 (園芸文化協会副会長)

父ウィリアム・エイトンはリンネのシステムで 1789 年 3 巻のホルタスキューエンシスを発刊 5500 種が記載されている。その子タウンゼント・エイトンはリンネ協会員 王立園芸協会創設者の一人で 11,000 種の植物がキューガーデンに入手された記録を 1811 年 5 巻のホルタスキューエンシスとして刊行。

その中の *Hydrangea* には

1. *H. arborescens* 1736 前 サムエル・ブレウーによって
2. *H. hortensis* 1788 ジョセフ・パクソンによって
3. *H. radiata* 1786 ジョン・フレザーによって
4. *H. quercifolia* 1803 ウィリアム・ハミルトンによって
又、ジョーゼフ・パクストンのパクストン植物辞典 1868 になると下記の記載となる。

H. arborescens 白花 7月 落葉 灌木 バージニア 1736
H. Azisai(あじさい) 青 6月 常緑 灌木 Nepon 1847
H. cordata 白花 7月 落葉 灌木 加ラ付 1806
H. Cyanema 白花 6月 常緑 灌木 フータン 1857
H. heteromalla 白花 7月 落葉 灌木 ネール 1821
H. hortensis 桃花 5月 落葉 灌木 中国 1740
H. japonica 青・白 7月 落葉 灌木 日本 1843
coerulea 青・白 6月 落葉 灌木 Nehon 1840
variegata 青・白 6月 落葉 灌木 日本 1846
H. Nirea 白 7月 落葉 灌木 加ラ付 1786
grabella 白・緑 7月 落葉 木本 庭園由来
H. quereifolia 白 7月 落葉 灌木 フロリダ 1803
H. stellata 桃 7月 落葉 灌木 日本

(3) 古書の色刷版から

3-1



The Botanical Magazine カーティス・ボタニカル・マガジン 1799 第 13 巻
ウィリアム・カーティス著
Hydrangea arborescens アメリカ バージニア州の野生が 1736 P.コリンソンによって英国に紹介された。



437 図 H.hortensis

Dr.スミスによると中国から1790年ジョゼフ・パックスによって王立園芸植物園に導入された。又サルター氏によって同年に輸入されたと言う。



438 図

このハイドランジアはフランス、ジェシュヌコンメルメンはホルテンシア属、ツンベルグはビブルナム、ローレイロはプリムラ属、Dr.スミスはハイドランジア属とし共に同意属である。

3-2 1846年 72巻(3rdシリーズ 第2巻)



4253 図版 H.japonica
BENIKAKU ローズ色
KONKAKU 青い色

シーボルトがNIPONの野性を見つけ欧州にもた

らした種。

H.hortensisと同じ栽培でよく成育する種で欧州においてもすぐに普通に見られるようになると思われる。

3-3



Flore des Serres et de Jaedins de L'Europe

1847 Vol.2 Louis van Houtle

(ルイバンホーテ)



187 図版

H.involucratavar.FlorePleno

ベルギーの生んだ園芸の父。1836ベルギー王立植物園長・ブラジル・ガマテラ・ホンジュラスから植物を導入。又、日本・中国・アメリカなど非常に広範囲に関係を持ち、大農場を経営する傍ら、この本全23巻(1845~1883)を出版しつづけた。玉アジサイの八重咲ギョクダンカ。

3-4 同上

1851~52 Vol.7



696 図版

H.japonicaallo-Vaniegata

この斑入りのアジサイは Van Houtle によって栽培された種で1851年、英国に導入された。斑入りガクアジサイ。

3-5 Paxton's Magazine of Botany and Register of Flowering Plants

1866 Vol.12 ジョーゼフ・パクストン



第200図版 H.japonica

パクストンは第一回万国博で水晶宮と云う、巨大温室を設計管理し、成功し、ナイトの称号をうける。ガーデナーズクロニクルの創設をリンドリーと行った。大鬼蓮を初めて開花させる。

H.hortensisの青・桃花の花の後に、異なった花のアジサイをロウナーセリーが導入、紹介された。中心の青花は特に美しい。

3-6



Beautiful Leaved plants

1861 E・J・ロウエ



第12版 H.japonica variegata

3-4の van Houtte の斑入りと同じ植物と思はれる。

3-7



The Garden an Illustrated Weekly Journal of Horticulture in all its Branches.

1894 第46巻 Edward Whittall



第990図版 H.hortensis var.lindleyana

この雑誌のガーデンは今RHSの機関紙のガーデンと異なり W.ロビンソンが1872年に創刊した園芸週刊誌。

花の色の変化が多く、場所によって、栽培によって同じ挿木苗からの花の変化が見られる。又 H/hortensisは、ロンドン附近、戸外の日当たりより少し日陰で、良結果であるが、本種は Lindley ナーセリーで作出され、日当たりの良いところでよく生育するとしている。

植物分類は、学者又時代と主に、研究によって、進歩する。

1) アジサイ H.macrophylla を中心として、類するヤマアジサイを含める考へ方で、ヤマアジサイ・エゾアジサイなどをその変種とする。

2) ガクアジサイを中心として、アジサイを含める一つのグループ。ヤマアジサイ・エゾアジサイを別の種とする考へ方とする。

故山本会長のご本では、主要参考文献として上原敬二樹木大図説が日本の文献として挙げられている。

Vol. 1206P~1225P 参照

日本の野生植物 木本 平凡社刊 1989 大場 秀章 責任稿

樹木大図説 有明書房 1959 上原 敬二 著

の二著の中のアジサイの日本産のみ和名・学名を表にしてみた。又シノニム(Sinonym) 同意属名をも記した。

本来各々にオーサー名をつける必要がある。

カテゴリーによって、更に分類する場合、亜科を設ける。

バラ目 ゆきのした科 アジサイ亜科
ズイナ亜科
スグリ亜科

とした。これがエングラから、クロンキストによってアジサイ科と独立したことは先に述べた。

又、種のカテゴリーは

亜種 (Subspeciers 略して Subsp.)
変種 (variety 略して Var.)
品種 (from 略して f.)

亜種は、地理的とか生態的とか異なるもの。品種は最も小さいカテゴリーで、花卉の色・斑入り等である。

大変難しいと思はれるが、会として統一見解を持つため。大場先生の時間が取れば、ご意見を承りたいと考える。



編集部より 参考まで

▼キュー王立植物園

ロンドン南西部にある英国王立植物園。通称キュー・ガーデン。2003年9月ユネスコにより世界遺産として登録された。132ヘクタールの敷地には、テンパレイト・ハウス、オランジュリー、パゴダ、パーム・ハウスなど計40の保存建築物、またヒストリック・ロイヤル・パレスが管理するキュー・パレスとクイーン・シャーロット・コテージなどの歴史的建造物もあり、その歴史は250年以上にも及ぶ。世界各地から無数の植物標本が収集されており、植物に関する革新的な研究をはじめ、地道な保護活動も行われている。

▼ウィリアム・カーティス

William Curtis (1746~1799年)

小さい時から植物学に興味を持ち、著名なパーキンソンの学生として勉強、叔父の薬種商の徒弟となる。1779年ロンドン ランベスにロンドン植物園を開園。1775年から1798年にかけてロンドン植物誌を72巻に分けて出版。つづいて1787年2月より園芸家向けに外国のエキゾチックな花を集めた『ボタニカル・マガジン』を刊行し、1984年~1994年は『キューマガジン』としたが1995年より再『カーティス B.M』として現在も年4回発行されている。世界最古の現存植物学雑誌である。リンネ協会創立のメンバーの一人でもある。(岩佐吉純)

	Hydrangea	アジサイ属	同意属名 (Synonym)
ツルアジサイ ゴトウヅル	petiolaris		
ヤハズアジサイ	sikokiana		
タマアジサイ	involucrata		
ラセイタタマアジサイ		var.iduensis	
ノリウツギ	paniculata		
ミナヅキ		f.grandiflora	
ヒダカノリウツギ		f.debilis	
ピロードノリウツギ		var.velutina	
ガクアジサイ	macrophylla	f.normalis	
ガクソウ		f.rosea	
アジサイ		f.macrophylla	
セイヨウアジサイ		f.hortensia	= H.opuloides ハイドランジア
ヤマアジサイ	serrata		= H.macrophylla subsp. serrata
			= H.macrophylla var.acuminata
マイコアジサイ		f.belladonna	= H.macrophylla subsp. serrata
シチダンカ		f.prolifera	f.belladonna
ベニガク		f.rosalba	= H.macrophylla f.rosalba
アマギアマチャ		var.angusta	= H.macrophylla var.angusta
アマチャ		var.thunbergii	= H.macrophylla var.thunbergii
ヒュウガアジサイ		var.minamitanii	
エゾアジサイ		var.megacarpa	= H.macrophylla subsp. yezoensis
			= H.macrophylla var.magacarpa
ニワアジサイ		f.cuspidata	= H.macrophylla subsp. serrata
(ヒメアジサイ)			f.cuspidata
コアジサイ	hirta		
リュウキュウコンテリギ	liukiensis		= H.scandens subsp. Liukiensis
ガクウツギ(コンテリギ)	scandens		
コガクウツギ	luteo-venosa		
ヤクシマガクウツギ		var.yakusimensis	
ヤクシマアジサイ	grosseserrata		= H.kawagoeana var.grosseserrata
トカラアジサイ	kawagooana		
ヤエヤマコンテリギ	yayeyamensis		
(シマコンテリギ)			

	Hydrangea	アジサイ属	同意属名 (Synonym)
がくあじさい	H.macrophylla		=H.hortensia var.Azissai =H.Azissai
あじさい		f.Otaksa	=H.otaksa =H.Hortensia =H.hortensis
白色覆輪		vriegate	
葉辺白斑		Allo-Vaniegata	
白黄斑		tricolor	
白淡紅斑		Rosea-marginata	
葉辺と中心部純白斑		niralis	
くろじくあじさい		f.mandshurica	=Var.mandshurica
あかばなあじさい		f.veitchii	=Var.veitchii
あおばなあじさい		f.coerulea	=Var.coerulea
しろばなあじさい		f.leucantha	
うづあじさい		f.concarosepala	
やまあじさい		subsp. serrata var.megacarpa	=var.acuminata
		f.cuspidata	=H.serrata = H.acuminta
			=H.hortensia var.acuminata
			=H.cuspidata =H.Belzonii
えぞあじさい		f.yesoensis	
しろばなあじさい		f.albiflora	
あかばなあじさい		f.rosea	
やえやまあじさい		f.plema	
はなやまあじさい		f.Buergeri	
いわがくあじさい		f.pubescens	
たがばやまあじさい		f.elongata	
べにかくあじさい		f.kaponica	=H.japonica =H.Hortensia var.japonica
しちだんか		f.prolifera	=f.stellata =H.stellata
			=H.sitsifan f.prolifera
			=H.stellata f.prolifera
			=H.serrata f.prilifera
あまちゃ		Var.thunbergin	=var.Oumacha =H.serrata var.oamacha
あまぎあまちゃ		Var.amagiata	=H.serrata var.omagiana
むつあじさい		Var.megacarpa	
こがく		Var.angustata	
しろあじさい		Var.alloglobosa	
ひめあじさい		Var.amoena	
ハイドランジア	Hydrangea	Hortensis	

のりうつき	H.oiruculata	
べにのりうつき	f.rosea	
みなづき	Var.grandiflora	
えぞのりうつき	Var.praecox	
つるのりうつき	Var.bracteata	
やえのりうつき	Var.prena	
ひだかのりうつき	Var.debilis	
びろうどのりうつき	Var.velutina	
このりうつき	Var.minor	
こあじさいのりうつき	Var.depressa	
あじさいのりうつき	Var.intermedia	
たまのりうつき	Var.laeta	
あおのりうつき	Var.vegata	
たまあじさい	H.involucrata	=H.cuspidata
やえのぎょくだんか	f.hortensis	=Var.hortensis
ようらくたまあじさい	f.multiplex	
ここのえたまあじさい	f.mouster	
てまりたまあじさい	f.sterilis	
こあじさい	H.hirta	
しろばなこあじさい	f.albiflora	
あまぎこあじさい	H.amagiana	
こがくつき	H.luteo-renosa	
やはずあじさい	H.sikokiana	
かくうつき こんてりぎ	H.scandens	=H.virens
ごとうづる (つるあじさい)	H.petiolaris	=H.scandens =H.cordifolia
つるあじさい	Var.ovalifolia	
とからあじさい	H.kawagoena	=H.angustipetala
やくしまあじさい	Var.grosse-serrata	
りゅうきゅうこんてりぎ	H.liukiuenisis	
やえやまこんてりぎ	H.yayeyamensis	
しまこんてりぎ (からこんてりぎ)	H.chinensis	

ノリウツギについて

副会長 藤井 清

ノリウツギといってもピンとこない人がいるが、これもアジサイの仲間の一つである。

昔は、この樹液が和紙の製法にはかかせない繊維のつなぎ材であった。現在でも夏期には腐敗しにくい性質もあって使用されている地域もある。



ノリウツギ

紙は二世紀のはじめ中国で発明され、七世紀のはじめ朝鮮を経由してわが国に伝えられたといわれている(推古天皇十八年(610)高麗国、曇徴によって筆、墨、紙の製法が伝えられた。=日本書紀卷二十二、梅宗園手録)和紙製造は当初官営の製紙場(紙屋院)のほか、各地から紙が貢上されていた。平安時代には唐の紙をしのぐ“上質の紙が製造されていた。その後官営の製紙場が経営困難になり地方の製紙が栄え、有名なのが陸奥紙(みちのくかみ)であり、江戸時代には越前、備中(幕府専用)にもできた。これらは厚紙(檀紙)といわれるものであり、鎌倉時代末頃に始まったとされ、現在も続いている杉原紙(兵庫)もその一つである。一方、越前(五箇村)でも上質和紙が製造され現在でも有名である。江戸時代中期には各地で生産されるようになった。

紙の材料には、コウゾ、ガンピ、ミツマタ、アサなどがあり、つなぎ剤としてノリウツギ、トロロアオイの粘着液が使用されている。

和紙の生産地は、そのほとんどが山間の地であり、ノリウツギの自生がある。しかも上質の湧水に恵まれている地帯でもある。

本題に入ってノリウツギに移ってみよう。
ノリウツギの自生は広く、南西、伊豆諸島を除きわが

国全土の山間地帯にみられる。また、中国、サハリン、南千島諸島、朝鮮半島にも自生が認められ、特に多い北海道ではサビタの名はよく知られている。一般にはノリノキとも呼称されているが、ラパス(アイヌ語)キンネニー(サハリン)など北国独特の名がある。

中国、台湾にも自生があり、円錐繡球と呼ばれている。また、ブレッチナイダリー(中国名、東陵繡球)(*H. bretschneideri*)はノリウツギに近い種類と思われる。この種は比較的到高木になり葉もノリウツギに似ている。花形は偏平な白花、装飾花は丸弁でやや大きく花期も早い。



ブレッチナイダリー

図鑑によれば、ノリウツギには多くの変異種が載せられている。(樹木大図説・上原敬二著)

ベニノリウツギ

花の帯紅色のもの。

ミナヅキ

野生なく植栽品、1860年欧州に入る。

エゾノリウツギ

大型のノリウツギ、主として北海道。

ヤエノリウツギ

八重咲き、アメリカでの改良種。

ツルノリウツギ

枝先がつる状になる。主として北海道。

ヒダカノリウツギ。

樹形小、花穂は全部両性花。

ピロードノリウツギ

葉に軟毛がある。三河産。

コアジサイノリウツギ

小型種、花序は偏平、本州中部、九州産。(ダ

ルマノリウツギでなかろうか)

コノリウツギ

小型種、四国、九州産。

アジサイノリウツギ

花はヤマアジサイに似て偏平、北海道サハリン産。

タマノリアジサイ

全部中性花。

オオノリウツギ

葉は3~4輪生、本州中部産。

以上のように多種にわたる実物を見たこともなく、今後の発見に期待したい。

近年、ダルマノリウツギと称される小型のノリウツギを店頭で見かけるが、花期も早く(アジサイの開花に間に合う)枝の切り込みにも耐えるので、鉢物として一鉢は欲しいものだ。

欧米では庭園樹として活用され、園芸品種、日本の野生種など合わせると100種以上に達する。中には赤く色づく品種や黄色の品種も含まれている。(FLOWERING SHRUBS. SPRING MEADOW NURSERY, Inc)より。

わが国ではノリウツギを庭園樹として扱われることは稀で、アジサイ園などで見かけることも少ない。花期が遅いせいもあって一般に普及しないのであろうと思われる。

しかし、花期の早い種類も存在することから4~5種植栽しておく、アジサイやタマアジサイと同時期に開花を合わすこともできる。

それとともに、高木の種類はヤマアジサイなどに自然の日陰をつくり、夏期の日射、高温を防ぐ効果も考えられる。また、装飾花の多いミナヅキは生け花、ドライフラワーなどに活用することも可能である。ただ、市販されているものの中には枝が細く、花が垂れ下がる種類のものがあり、購入時に注意したい。

ノリウツギの純白の花は緑の中にあって白さが映える。山道を登っていくと濃い緑の中に雄々しく天に向かって咲いているこの花を見かけることがある。その矢を射るような姿には植物の秘めた力強い躍動を感じる。

ノリウツギには生育過程にも柔軟性があり、あまり用土、肥料、乾湿にこだわることもなく、萌芽性もあり、ある程度の切り込みにも耐える強靱さがある。したがって庭園樹としての活用も十分考えられ、倭性種は鑑賞用に鉢物として楽しめる。

ノリウツギの花にも香りがある。近くではあまりよい香りではないが、離れるとなぜかすっきりした香りになる。一他の樹木の生気と入り交じるのかもしれないが、すがすがしい香りである。



中国植物誌第三十五卷第一分冊

以上、簡単にノリウツギを説明したが、山間部の会員は、このノリウツギを観察して、新しい種類の発見を期待している。

夏期の登山もこの花に合うこともできる参考としてアメリカにおける園芸化されたノリウツギの実態を紹介しよう。

それによると樹高、花期、日照、剪定など図解入りで紹介され、産地、作出者も明記しある。それは簡単ではあるが、我々異国人でも理解できる。

アジサイの栽培分野でも、こういった簡単な図式方式を取り入れると栽培の指針に大いに役立つものと考えられる。野生種のアジサイの栽培には土壌が重要視され、特に赤花系(現地での)のアジサイを栽培するには現地の土壌そのものの検索も必要になってくる。

それらを図式化するにはどういった方法がよいか、ご意見を拝借したい。



↑ エゾノリウツギ
葉が大きい



↑ ミナヅキ (枝の細いもの)
枝が太く直立する種類があり、花房も円錐形の
先のとがった種類があるが[ピラミッド]と
呼ばれている種類は野生種か、
それとも園芸種か？



↑ 斑入りノリウツギ
この種の斑は黄、白、薄緑色に
でるが固定していない。

ヒメアジサイの珍現象(丁字咲き)

以前のことであるが、十日町市の多田滋氏から送られてきたヒメアジサイの枝変わりの写真。

花穂も同時に到着したが残念ながら挿し木は活着しなかった。一時的な現象か、それとも後続しているのか不明であるが、アジサイの花は過酷な環境の元では不可解な現象を起こすことが多い植物である。



現地での写真



↑ 送られてきた花の拡大

アジサイの花の紅葉



もみじの紅葉が始まるころ、ある庭先に放置されていたアジサイの花が真っ赤に色づいていた。そこは、よく日の当たる場所であった。

藤井 清

自宅展ならびに展示会を開くまで

川内市隈之城町 松元公正

1. 山アジサイとの出会い

あけてもくれても野山の散策が好きだった家内が十月の頃、蒲生の土手や山林内を何気なく見て廻っていたら、山アジサイの葉がなんとなく普通のと少し変わっているようだったので、散々迷った挙句、子株を持ち帰ったのです。私も大したこともないと思って家の裏庭に植えて三年位の時、葉っぱに何かしら黄色の斑が少し見えてきたので早速挿し木をしました。

挿し木して四月頃芽を出し始め、五月になったら黄斑がしっかりと解るようになり、新聞社へ電話してきてもらいカラー写真入りで立派な記事になりました。

翌年、再び蒲生に行き大株の中に一本だけ斑入りが入っていて前のアジサイよりも散り斑がしっかり出てすぐ挿し木して次の年(平成十一年)新聞に載せてもらいました。

2. 県立博物館でのアジサイ展

鹿児島で始めて日本アジサイ展を見ていろいろな花や葉もあることや木の高いもの小さいものなどあることを初めて知り、ますます興味がわいてきました。机の上にいろいろな資料が置かれていましたが、何はともあれ「あじさい」という図鑑があり初めてのことなので驚くばかり。学芸員さんと女性の方が親しく話しておられました。「この本が欲しいなあー」とひとり言をいっていたら学芸員さんと話しておられた女性の方の「送ってやりますよ。」という言葉にびっくり。鈴木美智子さんという方でした。「近いうちにアジサイ協会が出来ますよ。」とおっしゃって、「住所とお名前をお書きくだされば」ということでなんとご親切な方だろうと思いました。

どれ位たったか本の方は忘れておりましたところ、相模原市みどりの協会「あじさい」図鑑と「アジサイになった男」山本武臣先生の本まで送って頂き恐縮。何のお返しも出来ずどうしたら良いのやら考え二、三日過ぎました。そこで今まで作曲した「大隈

アジサイ艶歌」なるテープを送りましたところ、「松元さんですか、私山本武臣と申します。いい歌ですね。五木ひろしのあじさいの歌より僕は好きです。」

「鈴木さんが送ってくれたんです。」といわれびっくり、このことから山本先生との電話のやり取りが始まったわけです。

3. 日本のあじさい図鑑に妻発見の写真送る

山本先生からは会員でなかった私にいろいろなことを教えていただきましたし、あじさいを送ってくださいたりして、少しずつ日本自生のあじさいを我が家の山荘棚に植えていきました。「みかん葉」「紅冠雪」その他。副会長の藤井清さんとのつながりも出来て「七段花」「乙女」「扇山八重」「コガクウツギ」その他多くのもを頂いて、ますますのめり込んでいきました蒲生のアジサイも裏山へ百株ほど植え込んでみました。山本先生より「九州で黄色の葉芸のアジサイが出たらしいよ、松元さんは知らんかいな。」とのことで北九州の草友に頼んで「黄冠」の小苗一株入手。山本先生へすぐ連絡。先生も大量に買われたようです。平成十二年六月二十九日シルバーセンターへ四人たのんで植えた次第。妻少し元気がなく、お茶を出すのも苦しかった様子。七月七日エコーで肝臓が相当肥大していて、病室の空くのを待ち十四日入院。八月十四日お盆のさなかの朝なくなりました。チリ子という名をアジサイにつけて「千里錦」で一関の図鑑に載せて頂き感謝の念で一杯です。墓の碑には「花心」と刻んでもらいました。山本先生からは香典まで頂きました。九月になって日本アジサイ協会会員の名刺を作って、「先生、協会に入らせて貰います。」先生は「おれは松元さんのようには切りかえはできないよ、まだ入会せんでも良いのでは」とおっしゃったが、早く入って先生に私の意をくんでほしかったし、前へ進まない自分がどうなるかわからなくなるような気がして入会しました。

4. 平成十三年六月下旬宮崎へ

山本先生の「日向山アジサイ」の抜粋された小冊子をたよりに同好の者三名で宮崎へ。行けども行け

どもアジサイに出会わず、若山牧水生誕の地に出て、少し休む。何もみつからず一路西へ西へと進む。しばらく行くと離合できない道へ入っていく。どれくらい走ったであろう、時計はすでに四時。水がしたり落ちる所が多くなる。途端に山アジサイ発見。鹿児島のアジサイにはない、すきとおるような紅。枝を少し貰ったり、小苗をとったりしてバケツの中へ入れて。大きな滝に出会う。一本貰う。一路小林へ夜のどぼり午後八時家に着く。山本先生へ収穫の報告。

5. 平成十四年後九月下旬宮崎へ 紅色発見

今年、その挿し木から生け花のように垂れ下がったピンクの花を風にそよがせ、他のアジサイにない、枝を自由自在にくねらせた味のある鉢になりました。どの鉢も同じ性質らしく風流そのもの。自宅展を五月二十四日と二十五日しましたが、女性だけでなく男性の方々からも「良いね。」「初めてみるアジサイだね。」「お宅が針金で曲げたのかしら」「自分で垂れ下がったのかしら」と話題になったアジサイでした。名前は「日向の紅神楽」と呼んでいます。分けてほしいと異口同音。五年後には出しますと自宅展においての方々に話すことでした。では、自宅展について書くことにします。

6. 平成十五年自宅展



← 入り口

五月二十四日～二十五日自宅での展示会をしました。集まるかどうか心配でしたが、決行。写真は「花」で統一し全紙14脚のイーゼル。障子をバックに額を飾り、座敷には四つのテーブルにかずらの飾り台や古木の飾りなどでアレンジ。友人の協力で私の持っていないアジサイを飾ってもらい、立派な

展示会場となりました。外の棚の上や玄関飾り、編んだかざるのカゴを屋根よりつるして風に揺れるアジサイの演出。すだれの下にも台を作ってアジサイを飾り付け。販売するアジサイもようやく手に入れて二日間なんとか終えることができました。七十二歳の体もびっくりするくらい働いてくれました。

翌日、車で二十五分程度の妻の墓へ。「母ちゃんの千里錦のおかげで、今の私があるんだよね。」「ほんとうにありがとう。」「立派な展示会になったよ」と報告しました。



← 拙宅北側のアジサイの見学

団地族なもので、自宅へおいで願えるのことも殆どないので大変喜んでおいで頂き良かったと思います。又、西洋アジサイと山アジサイとの違いが良く解ってもらい、山アジサイを買っていただいた近くの方々にも感謝しています。日向の紅のアジサイに人気集中。やわらかさ、しなやかさ、慎ましやかさ、この「——やかさ」が見る人々の目に焼きついて、「いつごろ出されるのですか」といわれる始末。眼識のあるのにこちらが驚いております。日本人の心の中にある「わび」「さび」の境地。日本人の共通の感性のあることに二度も三度も驚いています。



← 北側の飾り

「蛇の目のカサがいいね」との参観者の声。盆栽や山野草展示等二十年余りしてきて演出の大切さをいつも考えております。大型のタタミ飾り台は二十年前のもの。



7. 山林開発センターでの展示会

五月三十一日と六月一日、二日間の展示会。借り賃一日千円。田代という山あいの奥深い山林で写真展とアジサイ展、盆栽展をしました。台風4号接近で心配しましたが遠ざかり助かりました。私のアジサイや写真の三脚など軽トラックで二回運んでもらいました。

販売用は一時間三十分くらいかかる場所より購入。城ヶ崎は一日目でなくなりました。

一つの部屋にはアジサイ展示。一つの部屋には花の写真と小苗盆栽、草盆栽などの飾り。近くのおじちゃんおばちゃんやその子供たち。鹿児島より道がわからずようやく着いた人。初めての山アジサイを見る方々が多くて「こんなに色々の山アジサイがあるのにびっくりした。」とおっしゃって目の保養になったと帰っていかれた。お茶も接待して山林らしい雰囲気も作りました。道路側には色々な西洋アジサイが植えられ八分位に花も開いており、アジサイの展示にふさわしい場所に満足しています。二日間で四百名程度の参観があったようで、まずまずの展示会だったと思います。

終了後に二台の車で私の作品も運んでもらって無事完了。初めてにしては六十鉢の展示に二人共々満足しています。

好きなアジサイは私が発見した「日向の紅神楽」「三河千鳥」「城ヶ崎」……

何人か加入したいとって用紙をやりました。

六月三日は宮崎へ。七時半自宅出発。東郷町駐車場で三人集まる。八時出発。天気良し。一路宮崎へ。途中より高速道路にのる。十一時山の入り口に着く。悪路のためタイヤ二本パンク。電話も近くにないので小二十分程度走り民家へ飛び込んで電話したら一

時間ぐらいかかる距離だからとのことで日当瀬さんが残って待つことになった。私と同乗者の上野さんと山最終目的地まで歩くことにした。上り一時間半の行程。ひたすらアジサイ見たさに黙々と歩く。手は動くが足重く、進むのがやっと。兎道をのぼっては下り、下ってはのぼりようやく目的地に着く。「日向の紅神楽」があった場所。今年の花は咲いていない。枝を貰って早々に帰る。四時三十分。帰りは一時間。修理を終えた車で迎えに来て安心。疲れがどーっと出た。

枝は三人に分けた。途中でチャンポンを食べ帰り着いたのが夜九時半。明日の挿し木が待っている。原稿書き始めて夜中の三時。終わる。



「日向のアジサイ」



「日向の紅子持ち」とつけました。

透き通るくらいの紅です。たった二鉢なので増やしていきます。



美山町の山あじさい

京都府北桑田郡美山町福居

谷口 充

京都市から国道 162 号線を北に 50~60 キロの地点、京都府のほぼ中央部に美山町があります。福井県名田庄村、滋賀県朽木村の県境で静かな山間地です。

かやぶき民家の日本一多い地域として、近年美山町がよく紹介されておりますが、アジサイ愛好者には、深山八重紫の故郷としての当地をご存知かと思えます。

私が山アジサイに興味を持ちましたのも、そう遠い事ではなく、関西地区毎日放送ラジオの『ごめんやす・ばんぱふみおです』という番組で、神戸六甲山の森林植物園の藤岡昇先生を尋ねられ、アジサイ談義に花を咲かせるお話を放送されており、瀬戸先生による幻の名花深山八重紫の発見にまつわる話の中、美山町で発見と言うのを伺い、どのような花か拝見したいと、森林植物園の藤岡昇先生を訪ね見本園を案内していただき、花とお話をお伺いする中で興味を持ち、先生の勧めで当協会に入会させていただきました。会員申し込みを山本会長当てにいたしました所、早速お電話をいただき、「美山町ですか」と、当地に興味を持たれておられ、「もう少し若ければ訪ねてみたい」等、色々お話をいただきました。のち八重花を発見した旨、写真で報告しましたところ欲しいとのことで、繁殖しお送りしようと思っておりました矢先、訃報を聞き残念です。

さて、当地から福井県名田庄村にかけて山アジサイの自生地が多く、特に近年植林した杉林の間伐で明るい木陰になり、湿り気のある湿度の高い谷間に実生苗が繁殖し大規模な群生地を形成しています。特に谷川や沢沿いの山林の裾に多くみられます。青花、白花が多く、紅花は 2 割程度です。数年前から、開花期に友人と山歩きをして変わり花の収集をしております。まだ全体の 2%位しか回れておりませんが、絞り・八重・半テマリ・斑入り・ナデシコ咲・石化など発見しております。今後美山から多くの変わり花が発見されるだろうと思っております。



〈美山町位置図〉



■アジサイおちこち■

夏のアジサイ

兵庫県会員 前谷玲子

五六年前の夏に南アルプスに旅したときのことです。

連山に囲まれた細長い井川湖のあたりは涼しく、そして静かで一時の安らぎの場所でした。散策の途中ふと目に止まった花がありました。それは杉林の林床を覆うように咲いていたアジサイの花でした。一枝いただいて持ち帰り早速挿し木をしました。翌年庭の隅に下ろしておきましたところ、昨年一輪の花が咲きましたが、現地の花のように大らかな花ではありませんでした。

ところが、今年は枝の数も増え、その枝先には丸い玉のような蕾をつけ次々と開花しました。

玉のような蕾がはじけて飾り花が飛び出すさまは、丁度赤ちゃんがオムツから足を出している感じによく似ておりとても可愛く思います。

後で聞いたことですが、このアジサイはタマアジサイということでした。

私はアジサイが好きで、新聞で見た日本アジサイ協会の記事で早速入会しました。

その後、会報、図鑑、神戸市の森林植物園などを拝見し、アジサイの奥の深さを知りました。写真はわが家のタマアジサイ、大きくなって無数に花をつけることを期待して…。



九州一の滝とアジサイ

佐賀県 特別会員 相知町

「日本の滝百選」のひとつ「見返りの滝」周辺では初夏を彩る3万7000本のアジサイが咲き乱れ、その溪谷美は他のあじさい園に見られない趣があります。自然の中のアジサイ、滝の雫にしっかりとしたアジサイは炎天下でも萎れることはありません。

見返りの滝の上部は岩肌に添って滑るように流れ、下部は10m以上の落差で岩に砕け散る様は壮観です。

自然とアジサイの調和を第一にわが町ならではのアジサイを誇りにしたいと考えています。



H13年度撮影

ふるさとのアジサイ名所案内

新潟会員 堀野 一人

今年も何か所かアジサイを見て回りました。私自身一度も行ったことのなかった佐渡の蓮華峰寺にも6月22日に日帰りで行ってまいりました。その時の様子を少しばかり紹介したいと存じます。

新潟港から佐渡汽船のフェリーに乗り2時間20分、両津港に降り立ちます。(蓮華峰寺は小木町にありますので直江津～小木航路も便利なのですが、新潟～両津航路よりは便数が少ないです)。港前の

バスターミナルから小木町行きの路線バスに乗ること約40分、終点の一つ手前が「蓮華峰寺前」になります。バス停を降りた目の前が佐渡の紫陽花聖地です。



6月中旬から7月初旬が見頃ということで6月22日に行ってきたのですが、今年は花の時期がやや遅いようで当日は蕾が多く、色づきもいまいの状態でした。7月10日の新潟日報地方版の記事に「蓮華峰寺の紫陽花真っ盛り」との記事が載っておりました。例年よりも2～3週間は花の時期がずれたようです。この記事によるとアジサイは7000株ということですが、種類は15種類前後だったように思います。ベニガクや隅田の花火と思われるような株もありましたがほとんどはいわゆる西洋アジサイやホンアジサイだったのではないかと思います。鎌倉の明月院などのように境内、参道のあちこちがアジサイだらけという状態ではなく、ツツジ等も多く植栽され、時期が違っていてもそれなりに美しさを楽しめるお寺だと思います。それでもアジサイが満開の時期にはもう少し迫力があると思いますので、またそのうち訪れてみたいと思っています。印刷状態がいまいちですが、当日にデジカメで撮影してきた写真です。



新潟県ではアジサイ名所という田上町の護摩堂山が有名です。こちらも併せて、ぜひ一度新潟のアジサイ巡りにお出でいただければ幸いです。

平成15年 盛夏

「総会」往路のあじさい名所を訪ねて

理事 秋田 宏

東京・八王子から山梨・身延町のあじさい寺「妙見寺」へ。5000株程の西洋アジサイ中心にガク系を植栽。



写真① 妙見寺



写真② 内船アジサイ公園

山梨・南部町(新名所)内船アジサイ公園は特別会員渡辺氏を中心にボランティアが2万株を、富士川を見下ろす山に植栽。写真②参照。これから山アジサイ等の増殖とのこと楽しみ。

静岡・掛川の加茂荘は日本一の花菖蒲園だが、球根ベコニアとニューアジサイが何十種の鉢植えと花菖蒲を取り囲むように植えられ、苗の販売と薪種の命名ができる。写真③を参照。



写真③ 室内展示



写真④ 室外の展示

奈良・滝谷の花の郷(花菖蒲園・アジサイ園)
 姫アジサイと西洋アジサイを中心に 3000 株ほど。
 室生寺の近くなので、ついでに。



写真⑤ 滝谷の花の郷



写真⑥ 山燈花(総会会場)

大阪・千早・山燈花 15年6月21日(総会会場)

千早城跡下近くで、環境抜群、会場の下はすり鉢型になっており、その斜面を、西洋アジサイを中心に植えられ、色とりどりのアジサイが、色が混じることなく、青は青く、白、特に赤が美しく鮮明で公園関係者も羨ましがっていたほどでした。

さらに広大な裏山にはガク系や山アジサイが植えられ、自生の山アジサイあり、会員の皆さん羨ましがっていました。

山を降りると温室があり、その横には見本園があり、ここで、オーナーの井関さんから沢山の苗をもらい皆さん大変喜んでいました。さらに鉢を渡され好きな枝をといわれ大騒ぎでした。

遅くまで話がはずみ、井関さんの紹介のホテルに泊まる事に翌22日池田副会長の希望で水越峠を越え、長谷寺へこの時期アジサイ寺に衣替え、ポスターもアジサイ。雨で撮影できず。次の室生寺へ、途中、森の中の山アジサイを池田副会長が車窓より見つけ車を降り写真を撮り、女人高野の室生寺へ。

ここで池田氏と別れ帰路へ。翌23日町田市相原の長福寺の天井画を撮影に。(撮影禁止)お願いして特別許可をもらう。狩野派長谷川堤筆(1842)



写真⑦ 天井絵

蝦夷アジサイ探求

理事 武井 帝

7月のある日梅雨明けの遅い今年、群馬県境の高原にエゾアジサイを探して一人山を歩いた。

先日妻とバスハイクをして通りかかった山道で突然妻が「回りが青く真ん中が白い花が咲いている」と、バスに揺られていい気持ちになっていた私に話

しかけてきた。あたりは濃い霧に囲まれやっとその白いものが花だとわかるほどの悪天候であった。

ふと私の脳裏に...もしかしたらエゾアジサイかも?

しかしそう思ってもこの濃い霧の中、なかなかお目当ての花は現れない、「ほらそこに!」妻が走るバスの窓ガラス越しに指差すが、中側の席に座っている私には確認できない、するとまた「ほらそこにも」また妻が指を差した先にはまず間違いなく、エゾアジサイらしい影を発見。日本海側の山では何度かお目にかかっているが、ここは群馬県の沼田少し奥標高1,200メートル程のところである。本当はラベンダーを見学に来たのであった。そのラベンダーもこの濃い霧に立ちふさがれほとんど見学できない状態であった。ただそのとき何株かのエゾアジサイを確認することができたので、今日改めて群馬県の伊勢崎市に単身赴任になったのを幸いに朝早く寮を出て一人この場所に車を走らせた。今日は先日の天気と一転、梅雨の最中と思えないほどの好天気、先日バスで走ったコースをゆっくり走る、するとありました。早朝まで雨が降っていたのでまだ朝露が花に残り朝日に輝いて宝石のように光っていた。

また少し走り車を止め道端を探索、ゆっくりそれぞれのエゾアジサイを觀賞していくと、一つ一つに違った特徴があるに気が付く。色の濃淡、花の大小、花の形状の違いまたそれらの特徴を両方持っているアジサイ等こんなにも変化が著しいとは知りませんでした。そしてもっと変わったエゾアジサイを見つけられそうな気がしてワクワクしてきました。

今度は普通の道を離れ山道をハイキング、きっと珍しいエゾアジサイに会えるのではという希望を胸に抱きながら一人ブナ林を探索・樹齢200年ほどのブナであろう、それは手付かずの自然の中風雪に耐え大地に根を張り緑の枝を空いっぱい広げていた。

30分程そのブナ林を歩くがエゾアジサイは一向に現れない、また15分程ほとんど山の頂上付近であった、白っぽく輝く花が、もちろんエゾアジサイである。近寄ってみると普通のエゾアジサイであった。周辺にはいくつかの株が生えていた。一つ一つ花を見ていくと中に、装飾花が大きくうす青色で霞

がかかったように小さな白い斑点のあるエゾアジサイを発見、「これは珍しいのでは」と、内心感動する。「そしてこれを{霞エゾアジサイ}と命名しよう」。

勝手にそんなことを思いながら写真を4,5枚と穂を取り記録し下山する。

またその帰り道今度は車道の道端に近いところに芯が極端に濃い紫で葉脈が赤くほかのそれとはすぐに見分けがつくほど淡黄緑色の葉をした蝦夷アジサイが生えていた。これにはまだ名前は考えていないが、写真と穂を取り記録してその場を離れた。ほかにもいくつか穂を取り帰路についた。

半日のエゾアジサイの探求の旅であったが、こんなにも目と心を楽しませてくれるとは本当にアジサイは興味深い植物であると実感した一日であった。



(仮 霞エゾアジサイ)

梅雨の花アジサイ②

土壌の酸度で色が変わる

山本 武臣

アジサイ属植物はもともと山の植物であり、山の雰囲気合う。大型のガクアジサイは伊豆、房総の海岸沿いや伊豆諸島に自生するが、やはり山の斜面を好む。

アジサイはバラやチューリップのような庭園向きの植物ではない。乾燥に弱く、何より湿度を好む。バラやツツジを陽の花とすればやはり、アジサイは陰の花であろう。

アジサイの魅力といえば、青、紫を中心としたしっとりとした情緒、どちらかといえば心の傷を癒してくれるような屈折した陰影の深みにある。

私自身、事業の失敗による大きな痛手の際、この花の青の深みある魅力に心を慰められた。アジサイの名所を訪れる人々の感想は「心が洗われるよう」だ。飲めや歌えや、の桜、これでもかの豪華さ、高貴さのバラ、ボタン、突き抜けるような派手さのツツジ、と同じ花でもそれを見た後の感想はそれぞれ大きく違う。

アジサイは人の心を高揚させるよりも傷ついた心を静める作用の方が大きく、その効果は数多く見てきた。

ところが、現在ではこのアジサイの”静かな”領域にも派手さの波がヒタヒタと押しかけている。濃厚な赤、ピンク、派手なフリル、覆輪などの花も登場し、業者は大輪の鉢物に焦点を絞り売り上げを伸ばしている。一方で一時、片隅においやられていた野生種のヤマアジサイ系統も人気を巻き返している。

植物学的にみて、濃密で華麗なテマリ花と簡素なガク花の2型があるところがアジサイの特徴でさらに土壌の酸度に応じて花の色が変わるところが他の花にない特徴だ。

白花アジサイの魅力も捨てがたい。ノリウツギ、ミナヅキの白花も素晴らしいが、東京都の西、東京サマーランドにある米国種アナベルを群植した雪の山には思わず息を呑んだ。

第六回日本アジサイ協会総会報告

理事 安藤秀夫

- 1.日時平成15年6月21日(土曜日)12時開会
- 2.大阪府南河内郡千早赤坂村中津原381山燈花(井関理事経営施設)
- 3.参加者52名(理事12名)

4.総会

司会進行 井関理事

- (1)開会の挨拶 藤井副会長
- (2)議長選出 荒木副会長
- (3)事業報告 池田副会長
- (4)会計報告 池田副会長
- (5)監査報告 安西監事
- (6)議案審議

- I.平成14年度事業報告
- II.平成14年度決算報告
- III.平成15年度事業案
- IV.平成15年度予算案

- (7)新理事選任報告岩佐吉純、小林茂夫、細谷信二各理事
- (8)次期総会会場選定事務局一任
- (9)質疑応答
- (10)閉会の挨拶細谷理事

総会の概要

日本アジサイ協会第6回総会は幽邃の地、山燈花にて開催された。参加者52名で会食の後、総会前に理事、事務局・杉本氏より故山本会長逝去に際しての報告があり、今年度は会長不在のもと井関理事の司会で総会は開催された。

議長選出に入り、荒木副会長が選出され、事業報告、会計報告と進み、安西監事の監査報告があり了承された。

質疑応答では、アジサイについての様々な質問があいつぎ、藤井副会長・坂本理事等の的確な解答が寄せられ勉強会の様相を呈し会は盛況のうちに細谷理事の閉会の言葉にて総会は終了した。

次いで井関理事の案内で山燈花アジサイ園の見学会があり、山に植え付けてあるアジサイの花を夕刻間近まで楽しみ散会した。

新理事の紹介

故山本武臣会長の逝去、(財)相模原市みどりの協会常務理事長谷川雅征氏、神戸市立森林植物園々長福井直樹氏の転任を受けて次の方々が総会で理事として承認されました。任期は残任期間一年で今回は補充のための最小限の選任となりました。

理事 岩佐吉純

園芸文化協会副会長 (EXP090 花の万博コンテスト委員・審査員
日本種苗協会パビリオンプロデューサー等歴任)

理事 小林茂夫

(財)相模原市みどりの協会 常務理事

理事 細谷信二

神戸市立植物園 園長

森村

(アイウエオ順)

お詫びと訂正

今回発行の第11号のページ番号に誤りがあることに気づきました。本文への影響がないようなので、ここでお詫びと訂正をお願いいたします。

訂正箇所

誤	正
2 (193)	3 (195)
3 (194)	4 (196)
4 (195)	5 (196)
5 (196)	6 (197)

●事務局だより●

* 本会理事であり「みちのくあじさい園」の経営者である伊藤達朗氏がみちえ夫人と連名で十月二十九日に、いわて農林水産振興協議会々長・増田寛也岩手県知事名で「いわて農林水産業賞」を授賞された。

表彰理由は「長引く木材価格の低迷など、林業が依然として厳しい状況にある中で、祖父の代から引継いだ森林資源を生かした長伐期優良大径材生産を基本に、スギ人工林の林床を有効活用して創り出されたあじさい園を経営するなど、森林を総合利用した多角的な林業経営の優良実践事例となっている。

また、毎年あじさい祭りを地域ぐるみで開催せるほか、あじさいの郷づくりを目指して苗木を地域へ無償配布するなど、地域農林業を基盤とした地域振興に積極的に取り組んできた。」とのことで、アジサイが機縁となった表彰で、アジサイ協会としても会員の皆さんにお知らせし、お祝を申し上げ共に喜びたい。

* 十月上旬、兵庫県明石市立大久保小学校6年生の阪東、近藤、芳本の三君から以下のような手紙が事務局に届きました。

突然で申しわけありません。わたしは明石市立大久保小学校6年1組の阪東弘有です。

今私たちは、甘茶をつくる学習をしています。どうしても知りたいことがあるので、手紙をかかせてもらいました。できる範囲で教えて下さい。お願いします。

○ヤマアジサイを下さい。(葉)

原文のまま。近藤、芳本両君からも同文の手紙が有りました。

同校の担任の先生に電話をし、甘茶のポット苗、葉付きの枝を坂本理事、沼尾光三氏のご厚意で送りました。

甘茶製法は会報9号に武井理事の記事が掲載されていたので、会報9号と一関観光協会の図鑑を送りました。

後日阪東君よりお礼の手紙も頂きました。

* 五月頃に発行予定の次号会報十二号から会員相互の情報コーナーを設けます。四月十五日までにファクシミリかメールで事務局もしくはe-mail: ike55@luck.ocn.ne.jp まで簡潔に情報をお寄せ下さい。

掲載例

○アジサイ祭り

日時〇〇月〇〇日～〇〇日

場所〇〇県〇〇市〇〇

名称〇〇園〇〇坪〇〇万株

入園料〇〇円

問い合わせ〇〇〇〇園

電話〇〇-〇〇-〇〇〇〇

○アジサイ探訪の旅

日時〇〇月〇〇日

場所〇〇〇〇

定員〇〇人

参加費〇〇〇〇円

問い合わせ〇〇宅

電話〇〇-〇〇-〇〇〇〇

以上の様な要領で掲載コーナーを作ります。展示会、研究会、特別頒布会等

アジサイに関することは何でも掲載致します。情報をお寄せ下さい。

* 編集室より

今回は就任されたばかりの岩佐理事を始め、多くの方から原稿を寄せて頂きました。全てを掲載することが出来ませんでした。次号以降で機会を得て掲載したいと考えています。この様に原稿が集まる事はまれで以後も原稿をどしどし送って下さい。また発行が遅れましたことお詫び致します。